



★ ああすれば、こうなる！

最近いろいろな人の話しを聞く機会に恵まれます。その人は物品販売の仕事を40有余年されてきた人です。自分は地方の田舎から出て来て以来、お客さんのために精一杯にやれることをしよう！そんな思いで生きて来られたそうです。その間、会社からは算盤に合う仕事をするように、幾度となく注意も受けて来たそうです。その儲けは屋上屋で際限がなく、会社に身を置く者として、数々の衝突と悩みを抱えながらも、小さい頃を思い出し、田舎で農業をしている父親を思い出し、自分なりの仕事を一人ひとりのお客さんと接して来て振り返るとき、間違っていたかもしれませんが、これしか出来なかったと漏らしておりました。　　こうして。森田先生ともお付き合いが続けて居られるのも、これで良かった！と思える瞬間なのです。森田先生は兎も角、多くの人達とのお付き合いの歴史が、この方の喜びとして、今を支えていることを感じます。それは、今日の表題のように、ああすれば、上手く行く基準ではなく、その時その時に自分がやれることを一生懸命にする！繰り返しの人生であったのでしょうか。人生は、やはり育ちでしょうか！とも、その方と話したのですが、小さい時から両親や家族から貰ったと言って良いのでしょうか。私達の両親や家族は何を残してくれたのでしょうかと改めて考えるとき、今大事にしていること、例えば、人に嘘をつくな、ごまかさない、正直に生きろ、人には優しくしろ、食べ物にはうるさかったな～、貧乏だけど栄養には気を付けて来たつもりだよ。そして、夫婦の争いや悩みごとについては聞かされて来ませんでした。大変だったことは、子どもながらに想像をしておりました。両親は一生懸命に私たち姉弟を育ててくれたことは姉弟たちとも話しました。それでも、生き方にまでは言及しませんでした。後は、記憶をたどりながら生きていた姿を見て、私たちが受け止めるしかないのですが、両親は、あちらの世界から、そこじゃないんだよね～！と言っているかも知れません。南無～！人は生まれたら年をとって病気に成ってあの世に行きます。生老病死の普遍的なことを語るには未だ若すぎますが、先にお話ししました御仁の生き方にも触れることです。育ちの延長線上で生きて居ります私たちは、人生の意味や何のための生きるのかなどと考え始めるより、また、「ああすれば、こうなる」で人生を考えずに、一直線に生きることの楽しさを求め続けられる、人生のランナーで良いのではないのでしょうか。社会が複雑になり生き方も大変になる心配を、私たち大人はしますが、「ああすれば、こうなる」の技術や知識の前に、目の前の興味あることに一生懸命に取り組ませてやれる経験を積んでもらうことが、取り分け幼児時代には大切な経験かと思うのです。遊び込む、自分でやってみる！今回の年長組さんのお泊り保育は、そういう点でも生活の一つ一つを自分で出来た、やってみた二日間でありました。幼稚園で働いている卒園生の先生も、お泊り保育の楽しさが記憶に残っていることを聞きました。此の幼児期に出来る学びの喜びかも知れません。生涯につながる心の基軸づくりです。

